

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900940		
法人名	有限会社 グループホーム 夏吉園		
事業所名	グループホーム 夏吉園		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉3614番地1	Tel.0947-45-3105	
自己評価作成日	平成31年03月31日	評価結果確定日	令和元年06月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設以来様々な利用者様の晩年に寄り添いながら夏吉園も成長してまいりました。利用者様の望まれる理想の日々がどういったものなのか、常に迷いながらそこに少しでも近づけるよう努力しております。穏やかに過ごしていただきながらも「美しい」「懐かしい」「楽しい」「明日はもっとできるようになる」といったような前向きな感情が湧き上がるような介護を提供したいと、季節のお出かけや、かつて過ごされた場所へのお出かけ、行事、毎日のレクリエーション活動、リハビリに取り組んでおります。花の季節には特にあちこち出かけていきますが、帰ってきた利用者様は「やっぱりここがいいね」と言ってくださいます。地域の方も夏吉園のスタッフの明るい声に安心を感じてくださっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「夏吉園」は、認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、最期まで安心して幸せに暮らす事の出来る事業所を目指し、17年前に開設した定員18名のグループホームである。看護師を2名配置し、協力医療機関と訪問看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。年間を通して多くのイベントを開催し、家族にも声をかけて参加を促し、利用者の楽しみや生きがいに繋げ、ホーム内は、明るい職員の笑い声と利用者の笑顔で溢れている。また、旬の食材をふんだんに使い、心を込めて作る美味しい食事は当ホームの自慢の一つである。運営推進会議に、区長を始め、近所の住職、駐在所、訪問看護師、地域包括の参加があり、情報を得て地域の行事や活動に参加し、月1回公民館で開催する介護予防教室には、体操や歌、手作りおやつを楽しみに30人近い地域住民が集まり、理念に掲げている、「地域と共に生き地域に愛される園づくり」を目指して成長を続けるグループホーム「夏吉園」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel.093-582-0294	
訪問調査日	平成31年04月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和している。会議やミーティング時には、理念に沿った介護になっているか見直し、話し合っている。積極的に地域行事にも参加し、理念のひとつである地域と共に生き地域に愛される園づくりを目指している。	理念とモットーを見やすい場所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し共有に努めている。職員は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域と共に生き、地域に愛され、頼りにされるグループホームを目指し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	園の行事には地域の方たちもお誘いし、夏祭り、敬老会、クリスマス会等、毎年楽しみにして下さっている。公民館では介護予防教室を開催し、体操や歌の後、手作りおやつでお茶会を開いている。地域の方たちと利用者様との交流がますます深まっている。介護相談も受け付けている。地域の祭りにも積極的に参加し、子供たちの見守りや、山笠や神輿への食事の提供など役割を担っている。	公民館で行う介護予防教室は、手作りおやつと体操、お喋りを楽しみに、地域の方の参加が年々増加し、利用者や地域住民との大切な交流の機会となっている。地区の文化祭への作品出展、地域の祭りでの炊き出し等、地域の一員としての交流に努めている。また、ホームの行事に地域の方々を招き、共に楽しい時間を過ごしている。	保育園児との交流や、小・中学校の体験学習の受け入れ等、次世代交流に努め、利用者の喜びと、認知症やグループホームの啓発に繋げていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室では介護相談も受け付けている。また地域行事など参加される利用者様を通じて施設にいても役割や楽しみがあり、認知症があってもサポートがあれば普通の暮らしがあることを感じていただけるようで、その時の出会いから電話で介護相談をお受けすることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度のペースで行っている。区長・公民館長・駐在所の警察官・住職さん・地区包括センターの職員さん、そして新たに訪問看護の職員さんに参加していただいている。園の運営や取り組み、事故報告、利用者様の状況、行事などの報告を行っている。参加委員からの質問や要望などを話し合い、サービス向上に生かしている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、区長、公民館館長、警察官、住職、訪問看護師、包括支援センター職員等多くの参加を得ている。ホームの運営状況を報告し、昼食試食会や消防避難訓練等も採り入れている。また、介護予防教室を公民館で開催し、地域福祉の拠点として、地域の課題にも積極的に取り組んでいる。	家族の参加が無いので、参加可能な家族に参加をお願いし、地域代表や行政と顔を合わせ、共に利用者を支える関係作りへの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席され、認知症グループホームの現状を伝え、アドバイスをいただいている。また、行政窓口には、空き状況や事故等について報告・相談し連携を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状や取り組みを伝え、助言や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。行政窓口には、空き状況や事故報告を行い、疑問点や困難事例等を相談し、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修を受講し、内部で職員が講師となり、園内勉強会を行っている。職員一人一人が身体拘束をしない・させない介護サービスに取り組んでいる。	身体拘束についての外部研修を受講した職員が、内部で伝達研修を行い、禁止となる具体的な行為について共通理解に努め、言葉掛けや対応を常に振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、緊急やむを得ないとされる条件やその先の手続き、記録の方法等についても学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にたくさんの職員の参加を促している。また、受講していない職員にも内部研修で伝達している。毎日のミーティングでも言葉による弊害についても常に指導に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての外部研修に参加している。施設内では現在後見人である方を招き、勉強会を実施している。家族様からの相談があれば、制度や手続きの説明ができるよう体制を整えている。	権利擁護の制度に関する資料を揃え、見やすい場所に掲示する等して、訪れる家族の目にも触れるよう工夫して啓発に努めている。現在、成年後見制度を活用している利用者はいないが、内部研修の中で、職員一人ひとりが理解出来るように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すぐに契約というケースではなく、ご本人様やご家族様と共に、何度も見学に来られ、話し合いを重ね、納得した上で契約となっている。ターミナルについてのご希望もお伺いするようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。苦情相談ポスターを掲示している。日々の面会時には、ご家族様からのご要望をお聞きしている。問題点があれば、会議を開き対応策を検討している。また、月状況として、利用者様の毎日の心身のご様子・外出状況・受診結果などを詳しく記載し、毎月、月便りと一緒に送付している。	家族を招く行事を年に数回行い、ホームに足が向くように配慮している。家族の面会時にコミュニケーションを取る中で利用者の近況報告を行い、意見や要望を聴き取り、職員間で情報を共有しながら、それらを運営に反映させている。また、状況連絡票を毎月送付して、利用者の近況を報告している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回定期的に職員全体会議を開き、なんでも意見を言えるような機会を設けて活発な意見交換を行っている。毎朝のミーティングや伝達ノート、気づき箱も活用して、職員の意見・提案を聞き解決に取り組んでいる。	職員会議を毎月10日の19時から開催し、職員の意見や提案を出し合って話し合い、ホーム運営に反映させている。毎朝のミーティングや業務中にも、職員の気づきや心配事を話し合い、管理者を中心に速やかに解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の賃金規定や就業規則を整備しており、園開設以来社会保険労務士にも助言をいただいている。賞与は年2回。また、有給休暇は正社員もパート職員も取得している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たって年齢や性別、資格の制限ではなく、人間性を重視している。職員はそれぞれの能力や経験を生かして、生き生きと働いている。外部・内部の研修にも参加を促している。本人の希望ややる気があれば、65歳過ぎても頑張る生き生きと働いている職員もたくさんいる。	長く働き続けられる職場となるように、以前は多かった残業を無くし、休憩時間、希望休、有休の確保、個々の働き方の希望に合わせた職員配置を行ない、定年後も、職員の希望を聴きながら継続して働き続ける職場環境を整えている。職員は、特技や能力、経験を活かして生き生きと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様のお気持ちを大切にしている介護、夏吉園の理念に基づいた介護ができていないか、会議のたびに常に職員に問うている。接遇講師をおよびして個人面談による接遇研修を行っている。	利用者の人権を守る介護の在り方について、毎日の申し送りや業務の中、又は会議の度に話し合い、意識づけを行っている。管理者は、常に、「自分の身に置き換えて考えてみることを職員に伝え、理念である「信頼関係を作り人としての尊厳を大切にする」の実現に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの職員に外部の研修に参加してもらい、内部で伝達研修を行っている。研修に参加する際には職員の負担にならないよう勤務日程調整や賃金体制も整え積極的参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区サービス事業者協議会グループホーム部門の副部長を務め、同業事業者と情報交換や連携を密に図っている。また、他の施設と交換研修を行い、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度も園に来ていただき、他利用者様と一緒に食事をしたりレクリエーションをしたりして馴染んでいただくための時間を取るようになっている。ご家族様とも連携を図り、信頼関係の早期確立に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当園はいつでも面会を受け入れ、園の様子を見ていただいている。遠方から面会に来られる方は、泊っていただき朝食を皆様ととられ帰られます。ご家族様の困っていることや不安なこと、ご要望など、親身に話し合える関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、介護支援専門員、職員、管理者、、主治医、看護師、その他必要に応じて各専門職がチームとなり、本人の状態の把握から、支援方法を幅広い視点で見極め実行している。特に今まで介護を担ってきた中心人物からの話は丁寧に聞き取っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力に応じ、料理、掃除、庭の花づくりなどの軽度な家事には積極的に参加していただいている。料理においても、裁縫においてもすべての家事は利用者様から教えていただくことが多く、大家族のような家庭的な関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態が変化した場合はすぐにご家族様に連絡を取り、状況をお伝えしている。また、色々な行事にはご家族様を招待し、毎月、新聞や個人様の月状況も送っている。 利用者様が不安定な時にはご家族様にお部屋に泊まっていたりすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から利用者様にご家族やご親戚やご友人、知人様が訪ねてこられることが多く、行事の時にはそういった方も招待している。また、地域の行事も利用者様が馴染みのある方とお会いする良い機会なので、積極的にご連絡するようにしている。身内の結婚式や法事に職員が付き添い参加された例もある。	利用者の親戚、友人、知人の面会が多く、ゆっくり寛げるように支援している。職員は、利用者の行きたい所や会いたい人の把握に努め、利用者が口にした言葉を聞き逃さず、「行きましょう」と実現している。法事や結婚式等、家庭の行事に職員が付き添い、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が継続出来るよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをし、利用者様同士の会話が和やかになるように支援している。作業の手伝いにも入っていただき、孤立感を持たれないよう配慮している。利用者様同士の会話には注意深く耳を傾け、攻撃的な発言などがあった場合はすぐに間に入り、気分を変える提案をして長引かないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、面会やお見舞いには何度も行き、ご家族様との関係を大切にしている。また、亡くなられた方の葬儀や初盆には必ず参列している。退去時には園での思い出を綴ったアルバムや色紙、CD-Rをプレゼントしている。また、お亡くなりになった方へは、施設長が似顔絵を描いてお持ちしている。初盆にお伺いすると、お仏壇に飾ってくださっていてとても喜ばれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から今までの生活のご様子や趣味、嗜好、ご本人様の思いなどを聞き取り、ご本人様をより深く知る手掛かりとしている。日常生活の中では、たくさん話をし、お顔の表情から思いや希望を読み取っている。伝達ノートやミーティングなどを活用し、職員全員で情報を共有している。	職員は、日々の関わりの中で、利用者の思いや希望の把握に努め、職員間で情報を共有し、介護サービスに活かしている。意向表出が難しい利用者には、家族やベテラン職員に相談しながら利用者へ寄り添い、話しかけ、その表情や仕草から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時、一人一人の生活歴や生活環境、暮らし方等の情報は丁寧に聞き取っている。聞き取った情報は、個人用のファイルに保管し、職員会議やミーティングなどで情報を共有し職員全員が把握できるようにしている。また、利用者様とお茶を飲みながら、入浴しながらとふれあいを重ねていくうえでその情報をより深く把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録には日常の流れとともに、ご本人らしさが感じられるようなやり取りやご様子を記録するようにしている。今有する力は将来少しずつ失われる。その変化が把握できるように今できていることを記録にきちんと残せるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した、利用者本位の介護計画を作成するために、利用者様やご家族様より意見やご要望、不安なことなどをお聞きし、担当者会議で検討している。また、主治医や職員とも話し合い介護計画を作成している。利用者様の状態の変化に合わせて介護計画の見直しもしている。	利用者や家族の意見や要望、心配な事を聞き取り、担当者会議で検討している。主治医、看護師の意見を参考に、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録の様式を変更し、ケアの評価は毎週行うようにした。その記録は本人様にかかわるすべての職員が目を通すようにしている。ご家族様にも報告している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の強いご希望により、ご本人が昔働いていた場所を見てみたいと言われ、本当に探してお連れしとても喜ばれたことや、個別のお買い物にお連れしたり、ご家族様に協力を求められ、法事にお連れしたり、県外から来られるご家族様を、利用者様と一緒に駅までお迎え・お送りに行く等その時の状況に応じた支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事は利用者様にとって貴重な社会参加の場であると考え、開設以来、積極的に参加し続けてきた。文化祭で利用者様の作品を出品したり、出店や屋台を出させてもらったりして、利用者様にとって安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様、ご家族様と話し合って主治医を決めている。入居前のかかりつけ医を希望の場合は、希望を受け付けている。主治医には緊急時の対応や指示を出してもらい、安心の医療体制が整っている。	入居時に、利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。かかりつけ医の受診は家族と協力して行い、安心して医療が受けられるよう、支援に努めている。協力医療機関の内科、眼科による往診体制が整い、看護職員、介護職員、必要に応じて訪問看護師との連携により、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	持病をお持ちの利用者様について会議などを利用して看護職が介護職員に見守りのポイントなどを伝えている。病気に対する知識を深めるための勉強会も看護職が中心となり行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護士とケアマネが付き添い利用者様の日々の様子を伝える入院の際、窓口となる地域連携室とは日頃から密に連絡を取り関係を大切にしている。利用者様が入院された際は職員が交代で毎日2回食事介助に行き、病院関係者との連携に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備え正看護師の体制を整え、看取り期の方には訪問看護をご利用いただいている。入居時に交わす契約書の中でターミナルケアについて触れ、利用者様、ご家族様に希望もきいている。利用者様の重度化に伴い、ご本人様が安心して終末期を迎えられるよう体制を整え、常に主治医、看護師、介護士を交えた話し合いを行っている。	契約時に、重度化や終末期の方針について、利用者、家族に説明している。正看護師を2名配置し、必要時には訪問看護を採り入れ、利用者の終末期にも対応している。利用者の状態変化に応じて、家族や主治医と密に連絡を取りながら方針を確認し、利用者が安心して終末期を迎えられる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行う救命講習には毎年沢山の職員が参加している。園内でも普及員資格を取得した職員からの園内勉強会は欠かさず行っている。AEDはすでに設置済みであり、AEDを使用しての研修も行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの消防訓練は毎年行っている。また、月に一回の自主訓練、夜勤への引継ぎ時に夜勤者一人での対応を想定しての通報・誘導・避難訓練を短時間だが毎日行っている。災害時持ち出し袋は園の中にも外にも分散して用意している。連絡先や病歴、顔写真、服用している薬の名前などを書いた救急安心カードを首から下げられる形にして用意している。園内にはヘルメットや懐中電灯もわかりやすいように分散して置いている。公民館とは緊急時避難の提携もあり、備蓄品も置いている。	消防署の指導と地域住民の協力を得て行う消防訓練は年1回実施している。また、毎月1回の自主訓練、毎日行う夜勤への引継ぎ時の、通報、誘導、避難訓練等、非常時に職員が冷静に対応できる体制を整えている。緊急時に備えて災害時持ち出し袋を分散させて設置したり、ヘルメットや懐中電灯等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設当初より接遇講師を招き高齢者に対する人権の尊重、言葉づかい、礼儀作法などの職員研修を行っている。毎朝のミーティング時にも心のこもったやさしい言葉かけの大切さを伝達している。守秘義務については入社時に説明し誓約書を書いてもらっている。	利用者の人権を守る介護サービスについて研修を実施し、言葉遣いや対応に注意し、利用者一人ひとりのプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の調理作業は利用者様とともに行っている。近くの農協など買い出しにも一緒にお連れし、旬の野菜や果物、季節の花などを感じることもやいろいろな会話を通し、希望を実現できるように努めている。また、少しでもご本人様が決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で無理強いないく、その方の希望を優先し、リハビリがしっかりと生活の一部となって根付いている。また、外出、イベントなど車いすの方なども含めて全員が楽しみとして参加していただけるよう工夫している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	園の敷地内に園長の経営する美容室があり、一か月に一回のペースで美容室に行かされている。髪の毛のセットと共に美しくお化粧もしてもらい、女性だけでなく男性も美容室に行くのを楽しみにされ、素敵な表情で帰ってこられる。また、洋服類に関しては、たくさんの寄付をいただき、サイズの合う方には活用させていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方からはたくさんの旬の野菜を、職員からはたくさんの海の幸や山の幸をいただき、利用者様からの知恵をいただきながら、楽しいメニュー作りをしている。職員たちとテーブルを囲んでワイワイと賑やかな活気のある食事風景は夏吉園らしさが出ている。利用者様の調理・盛り付け・配膳や片付け等からはたくさんの事を教えられている。	家族や地域の方、職員から差し入れられる旬の食材を使った、ホームの自慢である美味しい手作りの料理を、職員と利用者が一緒にテーブルを囲んで食べる家庭的な食事の時間を大切にしている。利用者の方に応じて、調理や盛り付け、配膳や後片付けを一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事は主治医や歯科医に相談しながら普通食、キザミ食、ミキサー食等その方の状態に合わせた形態で提供している。水分の摂取量や食事の量は記録し、特変がある場合は医師や看護師に相談し、低栄養や脱水症にならないよう努め、生姜湯や甘酒を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後と就寝前と行っている。声かけ、介助の度合いは、利用者様のその日の状態に合わせて行っている。出来る方はご自身で行っていただいている。口腔ケアがなぜ必要なのかなど、職員会議などを通して職員には伝達している。また月2回歯科医による口腔ケアで専門的なチェック、指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄表を作成し、排泄パターンを把握している。なかなか自分で行かれない方には、時間を決め声かけし、できる限りトイレでの排泄ができるよう誘導している。お風呂がある日も毎朝洗淨し、ホットタオルで清拭している。トイレ誘導時の声掛けは特にプライドを傷つけることの無いよう配慮している。できることは自分でしてもらい、援助しすぎないことを気を付けている。	利用者が重度化しても出来るだけトイレでの排泄を基本とし、安易にオムツに頼らないように努力している。パットの種類やリハビリパンツの使用については頻繁に見直している。夜間は利用者の希望を優先して、トイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便パターンを記録し、把握している。食事は食物繊維を多く含む物や消化の良いものを使用するように心がけている。薬に頼りすぎないように、運動やマッサージ、水分補給などを組み合わせ、その人なりの排便ができるよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回予定しているが、その日の気分や体調に合わせて無理強いをせず、拒否のある利用者様には時間をずらし声かけしている。また、いつでも入浴できる24時間風呂を設置している。また、入浴は職員と利用者様がコミュニケーションが取れる貴重な場でもあるので、ゆっくり話などして入浴を楽しまれる支援をしている。	一日おきの入浴支援を基本としているが、利用者の希望や体調を優先し、いつでも入れるように努力し、ユニットで曜日が違うため、予定日に入浴出来なかった場合は隣のユニットで入る事も可能である。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員を替える等、色々工夫しながら、気長に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ夜間はゆっくりと眠られるように、日中は調理の買い出しや、料理作り、脳トレやリハビリ体操を取り入れている。就寝時間は決めておらず眠れない方はテレビを見たり職員とお茶を飲んだり寝ることを強制はしない。おひとりで寝ることを拒否する方には広間のソファベッドを利用し、人の気配を感じながら安心して眠られるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は各個人ファイルに保管し、変更があれば朝のミーティングや伝達ノートで確実に伝達し、全職員は理解ができています。服薬時は必ず2名体制で行い、声を出し確認を行っている。服薬後の小さな体調の変化にも気を付け、変化があれば管理者や看護師に伝達し、医師にも報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や歩んでこられた生活歴の中から、役割を持っていただき、支えられるだけではない自分を感じていただいている。日常的にはドライブや外食、ステージのあるカラオケに行き、大勢の前で歌を披露する、近くの農協など地域の方がたくさん集まる物産店などにもよく出かける等を楽しみの一つとして提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のご希望すべてにはそえていませんが、近隣への花見のドライブや買い物などよく出かけている。また、園の庭には季節の果物の木がたくさん植わっており沢山の実が実っている。それを皆様で収穫され、季節を楽しんでおられる。また、普段は行けないような場所に行きたいという希望もご家族と協力して出来るだけ叶えられるように支援している。	利用者が重度化しても、花見やドライブ等、出来るだけ皆で色々な所へ出かけている。利用者の希望を聴きながら、体調に注意して、近隣の散歩や園庭で外気浴を行い、おやつを食べたり、園内の花や植木の手入れを利用者と職員が行う等、戸外で気分転換が出来る環境を整えている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理に不安がある方は園が管理しているが、希望される方はご家族と相談し、小額のお金は所持されている。ご家族様が来園されたときにお小遣い帳を確認していただきサインをいただく。ご家族様には毎月お小遣い帳のコピーをお送りしている。お預かり時には預かり証も発行している。お買い物にはお連れしたときは、ご自身でお支払いもしていただくようお手伝いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月外部講師をお呼びして絵手紙教室を開いていただき、出来上がった作品に短いお便りを書いていただき、ご家族やご友人にお送りしている。電話はご迷惑でない時間帯ならいつでも支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あちらこちらに花を生けたり、職員や利用者様手作りの季節の小物を飾ったりと家庭的な明るい雰囲気づくりに努めている。また、車椅子の方がそのまま入れるような大型コタツを手作りし、皆様の居心地の良い場所となっている。	玄関周りに花を植え、室内にも生花を生け、季節感を大切に家庭的で明るい環境である。車椅子のまま入れる炬燵を手作りし、足元が温かいと利用者に好評である。職員は、「常に利用者のために」をモットーに、清掃や換気を徹底し、利用者が居心地良く過ごせるよう、工夫を重ねている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には椅子やソファを数多く分散して配置している。利用者様がお友達と話がしたいときにはその場所へ、一人になりたいときは好きな場所へと座ることができる。ゆったりと過ごせる居場所づくりを工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きなので入居前と変わらない畳の生活ができています。利用者様が入居される際は今までの使い慣れた家具をお持ちいただき、利用者様の使いやすいお部屋を作るようにしている。壁には写真を飾ったり、ご自身の作品を飾ったり、花を飾られたり、思い思いのしつらえとなっている。	畳敷きの居室に、利用者の馴染みの家具や大切な物の持ち込みをお願いし、その方らしい居室となるように、家族と相談しながら支援している。利用者の興味のあるものやこだわり等に沿って、壁に写真や絵を飾る等、少しでも本人が安心して過ごす事が出来るよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札代わりに利用者様の写真を飾り、お風呂やトイレは混乱の無いようイメージしやすい看板を付けている。利用者様のその時々々の身体状況に合わせて居室内で安全に過ごせるように家具の配置を工夫している。		